

気の進まない進路を取れ：North by Northwest

第5期OB 千葉 貴宏

冒頭にいきなり自慢ですが、私は、現在までの大学院生活で4回ほど国際学会に参加しました。日本で開催されたものを除くと3回で、開催地は順に、ドバイ、ニューオーリンズ、ベネチアでした。発表と質疑応答はいずれも英語で行い、基本的に、他に日本人はいません。質問の内容を理解できずに黙ってしまったり、会場の場所を間違えて遅刻しそうになってあわてたりしたこともあります（後者はつい先日のベネチアでの出来事でした）。このようなハプニングは、国際学会ならではですし、そもそも、初めての国外旅行が国際学会であった私にとっては、起こるべくして起こったと言わざるを得ないと思います。

それでも、私は、国外での学会発表が大好きです。なぜなら、（観光が楽しいから、という理由はさておいて）国際学会は「やさしい」からです。ひとつは、日本で開催される学会のようなしなやかさや関係性がなく、また、瑣末な点でつまこみを入れてくる聴衆がいないということ、つまり、準備が非常に「易しい」ということを意味します。もうひとつは、質疑応答の際に何を言ったらいいかわからなくなってしまっても、司会の先生や聴衆が議論に割って入って助けてくれるということ、つまり、参加者が「優しい」ということを意味します。このような思いがけない良さに気付いている大学院生は、おそらく、日本にはいないかと思います。



発表後の会食にて（著者は右端）

私は何が言いたいのか？ それは、「選ぶのに迷ったら、自分が気の進まない方の選択肢を取れ」ということです。

大学に入学した頃は、私は、自分が大学時代に勉強に打ち込むとは思っていませんでした。小野ゼミに入った頃は、自分が大学院で研究に打ち込むとは思っていませんでした。大学院に入った頃は、自分が英語で論文を執筆し国外で学会発表をするとは思っていませんでした。私の人生の分岐点とも言うこれらの意外な出来事を導いた選択は、あえて誤解を招くような表現をするならば、当時は気が進まないものだったように記憶しています。しかし、今では、それらの選択は、自分を変えてくれた、自分の視野を広げてくれた、とてもハッピーな選択だったと感じています。

気の進まない選択が人生を変えてくれるということそれ自体は、想像に難くないように思います。自分の想定範囲内にあるような選択肢を取れば、当然、選んだ道の先にあるのは、自分の想定範囲内の結果であることが多くなるでしょう。逆に、冒頭に示した国際学会の思いがけない良さのように、想定範囲外の結果に自分を導いてくれるのは、気の進まない方の選択肢であると思うのです。

冷静に考えようとすればするほど、落ち着いて選ぶとすればするほど、人生はつまらない色を帯びていくかもしれません。『ハムレット』におけるハムレットや、『北北西に進路を取れ』（原題：North by Northwest）におけるロジャーよろしく、一見混乱や狂気に囚われているようにみえるときの選択が、より豊かな人生を演出してくれるかもしれません。どちらの作品も観たことはありません。